

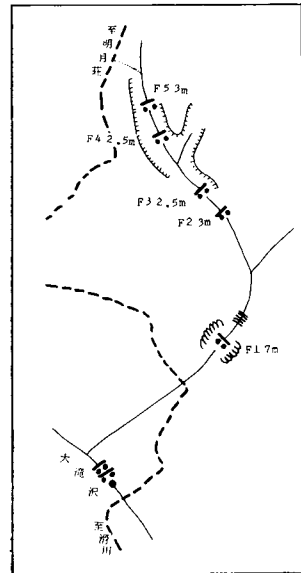
る。一時二〇分桶木沢出合について昼食にする。桶木沢は鉾山の廃石で埋っている。

入道沢出合（水量は本流より多い）を過ぎると、沢は極端に水量が減り、滝もかからなくなる。下流のそう快な廻行気分を味わえる所とうって変わって、つまらない平凡な沢登りが続く。一二時一〇分潜滝到着。潜滝とはうまく名付けたもので、大きな岩場に深い溝が刻み込まれ、その中を水が流れ落ちていくという変わった滝だ。

興味深い所はあるが水量が少ないため、豪快さはない。左岸をいく登山道を利用してこの上の滝も一緒に簡単に捲く。流れのとだえた久蔵沢を見送って少しいくとF17にぶつかる。そう苦労しなくとも左岸を直登できるが、次のF18は直登できず右岸を捲く。あとは平凡な源流のつめが残されているだけだった。沢筋を忠実につめて東大巔の斜面にとびだす。雪渓が消えたばかりで、春や夏、はては秋の花の咲く湿原を横目で見ながら急ピッチで滑川まで下り今日の行動を完了した。（記・又）

〔タイム〕

- 出合八…三〇―大滝九…〇〇―ホラ貝沢出合九…五〇
- ―潜滝一二…一〇―東大巔斜面一四…一〇



久蔵沢（下降）

一九八〇年九月十五日

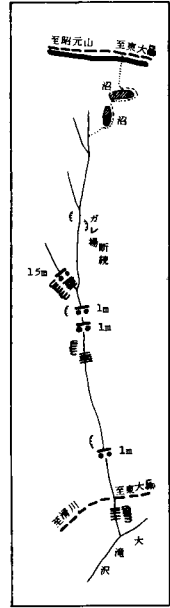
◆天気（晴）

明月荘で一息いれて久蔵沢へ。源流の湿原を左に見て、やや下ったあとで沢に入る。

沢とはいえ水もほとんどなく、沢床も土砂と木の枝におおわれている。とにかくワラジをつけ、下降を始める。兩岸はガレていて、非常にもろい。まもなく二段の滝。普通なら廻行図には記入しない小さなものだが、沢も短いのでマメに記入する。

ナメを過ぎ、水は少ないが、ようやく滝らしい滝。す

久蔵沢（作図：）



入道沢 (作図: 〇)

て繩を利用して懸垂下降。登山道に出た所で昼食。

大滝沢に出るまでは何もナシ。潜滝の上にもう一段の滝があるのを確認。そのまま下れないので、左岸の岩を

まいて登山道へ出る。

(記: 〇)

〔タイム〕

下降開始一〇:三〇—七時滝一:一〇—登山道一

一:五〇—大滝沢合流点一二:〇五

## 入道沢 (下降)

一九七八年九月三日

◆天気 (曇)

一時五五分下降開始。クマザサの中を五分下ると割合と大きな沼に出た。こんな所にと意外の感じ。まわりをう回して再び下り出したら、今度は前よりは少し小さ

い沼。いずれもミズバシヨウ他湿地の植物が生えている。

一二時二〇分ようやくはつきりした沢筋に出たが平凡。

二〇分程下ると二俣になる。左俣は水量こそ少ないが一

五匹の滝が見える。なおも下降を続けるがまったく平凡。

一三時二〇分登山道に出て下降終了。あとは列車の時間

を気にしながら飛ぶように下って峠駅へ。

(記: 〇)

〔タイム〕

下降開始一:一五—二俣一二:四〇—下降終了一

三:二〇—滑川一四:〇五

## ホラ貝沢

一九七七年七月三日

◆天気 (晴)

大滝のすぐ上でワラジをつけ遡行を開始する。大滝沢の特徴であるナメ滝が連続し、ホラ貝沢出合までも結構楽しい。ホラ貝沢の出合は小さな滝と、赤っぽい鉄分を含んだ水が流れているのですぐわかる。

ホラ貝沢に入るとすぐ小さなナメ。落ちてきた石がゴ